

活用事例

- トンネル延長: 226m 幅員: 8.75m
- トンネル形式: 山岳トンネル工法(矢板工法)
- 対象部位・部材: 附属物(ボルト・ナット)
- 性能カタログ(又はNETIS)番号
: TN020015-V0225

[☆性能カタログへのリンク](#)

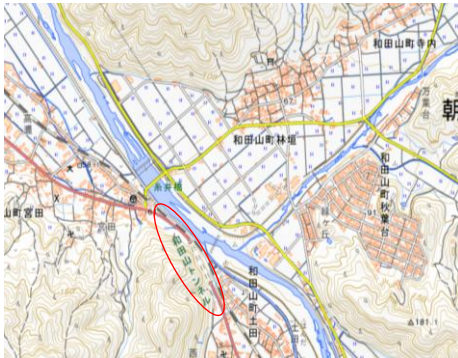


作業状況



トンネル坑口

位置図及び使用機器



使用機器

○点検支援技術の効果

- ・打音検査で打撃力を計測し、ボルト・ナットのゆるみ具合を定量化。
- ・検査結果を打撃反力の時間波形から確認可能で、ボルト・ナットの健全性が見える化。
- ・ナット増し締め個人の差解消。

○近接目視(触診)と同等と判断した理由

- ・キャリブレーションとして、健全な状態の対象物をあらかじめ測定することにより、ゆるみ具合を確認できる。

○使用時の留意事項

- ・接着系アンカーのボルトと母材の固着具合を調べる際は、軸力を開放する必要がある。。
- ・ハンマーと打撃面が直角になるように打撃すること。

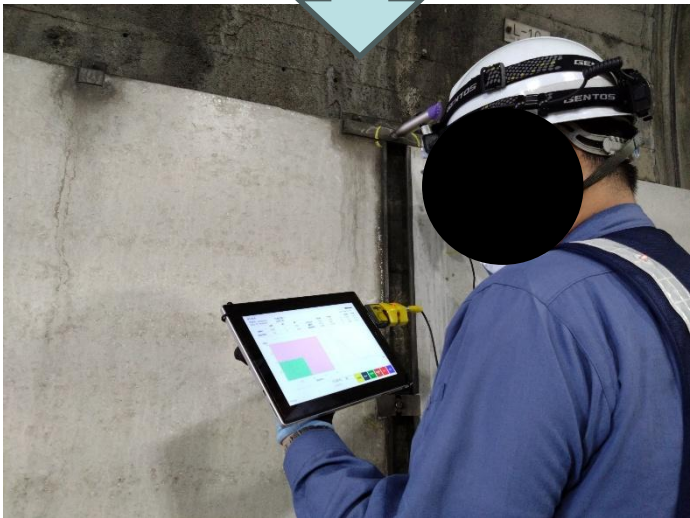


写真-1 計測状況
(増し締め後の確認)

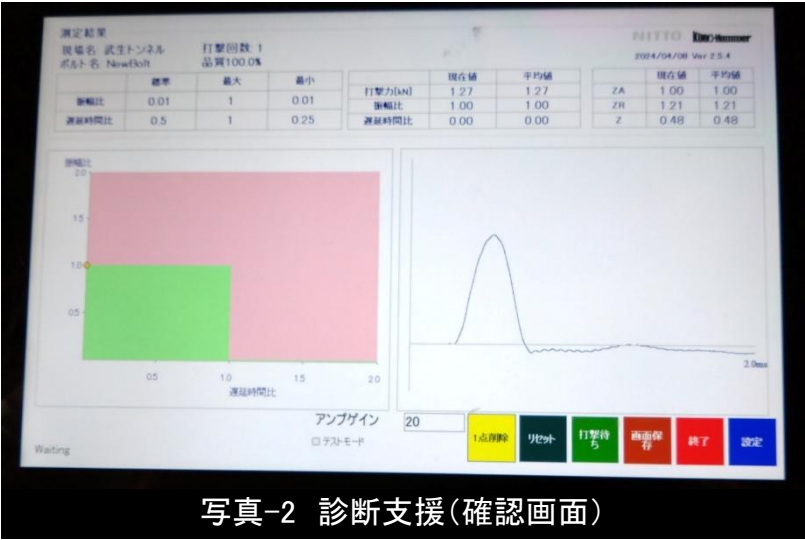


写真-2 診断支援(確認画面)

